

帯広の森に関するアンケート結果

1. 調査の目的

「帯広の森」では、昭和 50 年から平成 16 年までの 30 年間、多くの市民の皆様のご参加とご協力によって植樹がすすめられ、これまでに 133ha の土地に約 23 万本の樹木を植樹することができました。

その結果、帯広の森区域内の未植樹地も残り少なくなり、30 年もの長きにわたり市民の皆様にしまれ支えられてきた『帯広の森市民植樹祭』も、平成 16 年 5 月の第 30 回目ををもって終了したところです。

しかし、帯広の森づくりはこれで終わってしまったわけではありません。帯広・十勝の風土に根ざし、皆様に愛される豊かな森を目指して、これからも多くの市民の皆様のご参加とご協力をいただきながら、帯広の森づくりをすすめていかなければなりません。

本調査は、帯広の森づくりが 30 年目の節目を迎えたのを機に、森づくりの主役である市民の皆様から、帯広の森の利用の実態や、森の現状に対する認識、これからの森づくりのあり方などについてご意見をうかがい、今後の帯広の森づくりに活用させていただくことを目的として実施しました。

2. 調査の対象と方法

本調査は、平成 16 年 5 月に、帯広市（緑化環境部公園と花の課）および帯広の森市民植樹祭実行委員会が共同で実施したものです。

平成 16 年 5 月の『第 30 回帯広の森市民植樹祭』に参加した市民 2,100 名の方々を対象に、アンケート調査票（掲載省略）を配布して協力を依頼したところ、622 名の方から回答を得ました（回収率 29.6%）。このうち、未記入の部分があるなど、回答内容が不十分であった 28 件を無効とした結果、有効回答数は 594 件となり、調査票配布数に対する有効回答率は 28.3%となりました。

表1 回答者の年齢分布

	人数	割合
9歳以下	4人	0.7%
10～19歳	148人	24.9%
20～29歳	26人	4.4%
30～39歳	33人	5.6%
40～49歳	60人	10.1%
50～59歳	64人	10.8%
60～69歳	156人	26.3%
70歳以上	103人	17.3%
計	594人	100.0%

3. 調査結果の概要

（1）回答者の属性

回答者の性別比は、男性 68.7%（408 人）、女性 31.3%（186 人）でした。

また、回答者の年齢分布は、表 1 のとおりとなりました。

（2）帯広の森を訪れる頻度

帯広の森を訪れる頻度については、「年に数回」という回答が 70.4%に達した一方で、「ほぼ毎日」、「週に数回」と回答したのはそれぞれ 7.2%、5.4%にとどまりました（図 1）。

本調査では、市民植樹祭に参加した方々から回答を得ていることから、この結果は必ずしもすべての市民の実態を反映

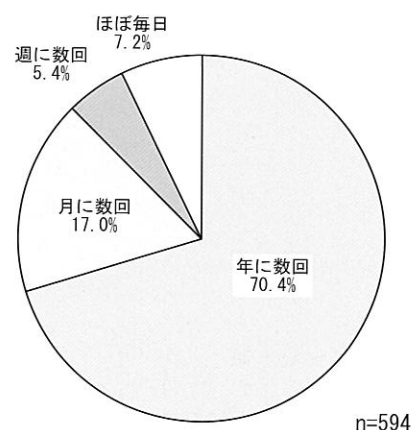


図1 帯広の森を訪れる頻度

しているとは言えません。しかし、この結果から、市民植樹祭への参加を通じて帯広の森と関わりを持つ人たちがさえも、現状では、市民植樹祭のほかに帯広の森を訪れる頻度はそれほど多くないことがうかがえます。

(3) 来訪者の形態

主に「ひとりで」帯広の森を訪れるという回答は全体の 12.1%にとどまりましたが、「友人と」(27.9%)、「家族で」(22.1%)、「団体で」(37.0%)といった、誰かと一緒に訪れることを示す回答が大半を占めました(図2)。

これは、市民植樹祭・育樹祭に個人で参加する場合に比べて、団体や家族連れで参加する場合のほうが多いという実態や、帯広の森においては、運動施設などのように団体での利用を前提とした施設が多く整備されていることなどを反映した結果であると言えます。

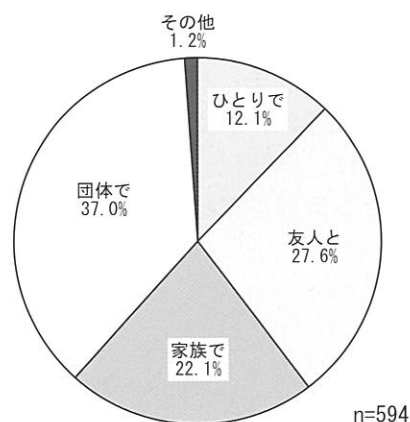


図2 来訪者の形態

(4) 帯広の森への主な来訪目的

帯広の森を訪れる主な目的としては、「植樹活動」という回答が 41.0%と最も多くなりました(図3)。これは、主に市民植樹祭への参加を意味するものと考えられます。また、毎年秋の市民育樹祭に関する「育樹活動」が 16.0%、このほか「イベント参加」が 15.8%に達し、多くの市民にとって、市民植樹祭・育樹祭など、各種のイベントが帯広の森との主要な接点となっていることが示されました。

「運動公園内での運動」は 28.5%となり、運動施設が整っている帯広の森の特徴を顕著に示す結果となりました。

このほか、「散策・休憩」(25.8%)、「遊び」(19.5%)、「自然観察」(16.0%)といった、個人や家族・仲間連れで比較的気軽に楽しむことのできる活動を目的とした来訪者も多いようです。

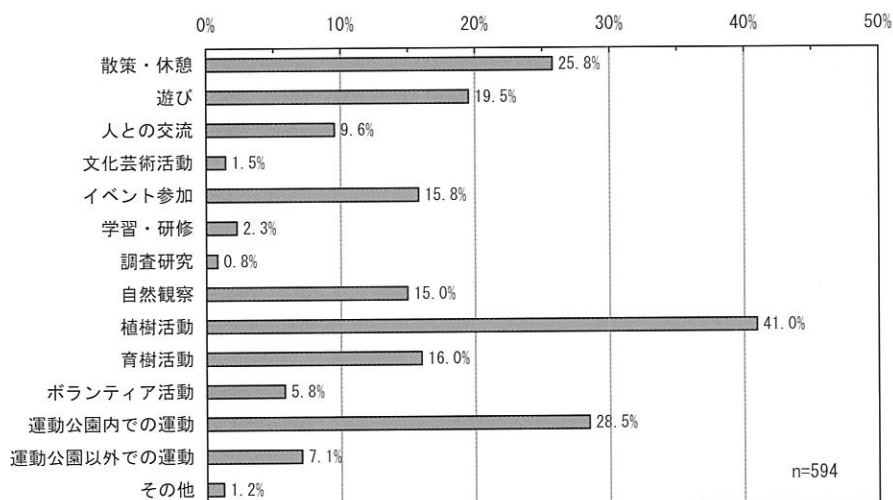


図3 帯広の森への主な来訪目的(複数回答可)

注) 本報告書中、各図中の「n=」とは、割合算出の基数を示すもので、原則として有効回答者数(594人)を示します。また、割合(%)は小数点第2位を四捨五入して少数点第1位までを表示しました(四捨五入したため、合計値が100%を前後する場合があります)。なお、「(複数回答可)」と表示のある図は、3つまでの複数回答を認めているため、各項目の割合の合計は100%を超えます。

(5) 現在の帯広の森の評価できるところ

「植樹・育樹活動を通じて森づくりに参加できる」という回答が38.7%で最も多く、市民植樹祭・育樹祭などを通じて、市民が森づくりに直接関わってきたことを反映した結果となりました(図4)。しかし、さらに発展して「森づくりに通じてまちづくりに参加できる」と評価している人は21.0%にとどまりました。

現在の森の姿に関しては、3割を超える人が「かなり森らしく成長してきている」と評価するとともに、「緑豊かな環境の中で安らぎを感じることができる」、「散策や運動など、多様なレクリエーション活動を気軽に楽しむことができる」といった、緑地としての機能が評価されました。

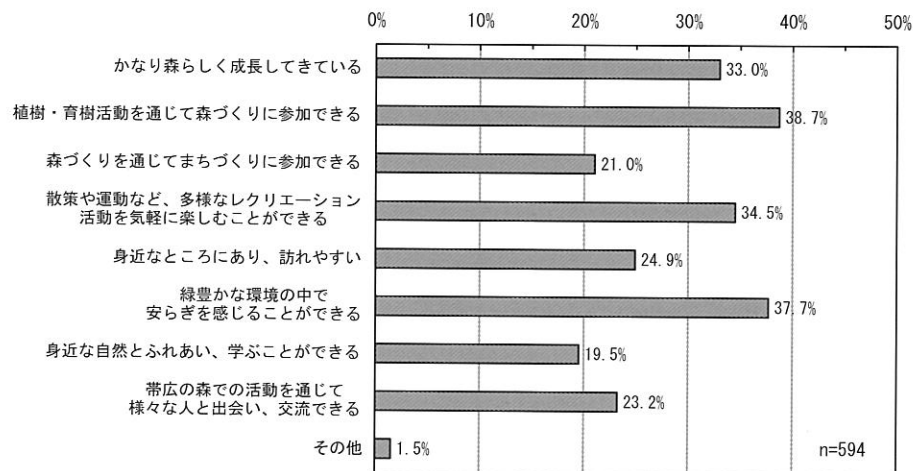


図4 現在の帯広の森の評価できるところ（複数回答可）

(6) 現在の帯広の森の問題点・課題点

「市民植樹祭・育樹祭以外に森とふれあえる機会が少ない」、「帯広の森での行事や森の自然・四季に関する情報が少ない」という回答がそれぞれ40.6%、36.9%を占めるとともに、「『訪れたい、利用したい』と感じられる場所や施設が少ない」と感じている人も27.9%に達しました(図5)。市民が日常的に帯広の森を訪れていないという現状は、こうした問題点と関わりが深いと思われます。

森の維持管理に関しては、3割の人が「ごみの投げ捨てなどがみられる」ことを挙げており、「樹木の育成管理が十分に実施されていない」(17.0%)に比べ、より市民にとって身近で認識しやすい問題に対する指摘が多く寄せられる結果となりました。

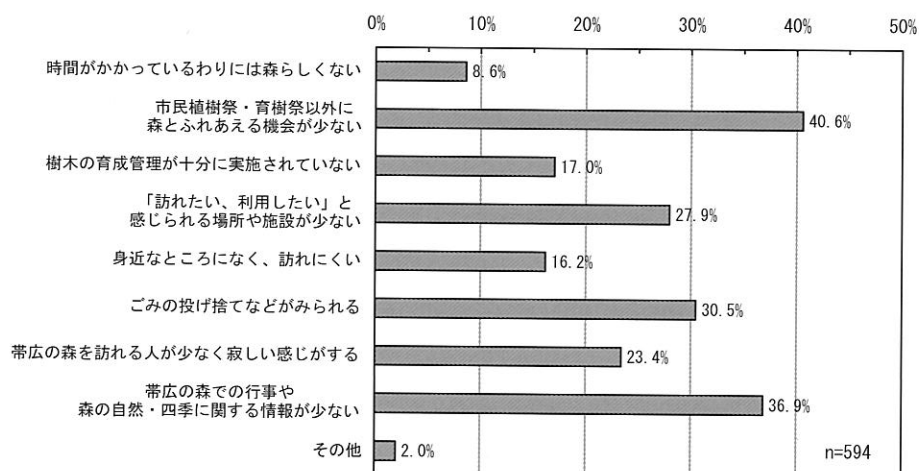


図5 現在の帯広の森の問題点・課題点（複数回答可）

（７）帯広の森で今後やってみたいこと

今後、帯広の森でやってみたいことを尋ねたところ、図 6 のとおり回答を得ました。

前出（３ページ）の「図 3 帯広の森への主な来訪目的」に示した現状と比較すると、まず、「植樹活動」と答えた人が 41.0%（図 3）から 14.6%（図 6）へと大幅に減少しました。これは、市民植樹祭が第 30 回目をもって終了したことが影響しており、植樹に代わる新たな活動に目を向ける市民が増加する傾向にあると推測されます。

ただし、「育樹活動」や「イベント参加」は、図 3 と図 6 に示した結果がほぼ同程度となり、帯広の森で開催されるイベントへの期待度が変わらないこともうかがえます。

また、「人との交流」が 20.0%へ増加しました。とくに市民植樹祭は団体での参加が多く、市民植樹祭への参加を機に団体の構成員などと交流・親睦を深める方々も多いと思われますが、今後は、市民植樹祭に代わる市民同士の交流の機会をつくることに対する期待も高まっていると考えられます。

このほか、「運動公園内での運動」は 33.5%と、依然として高い割合を占めるとともに、「散策・休憩」（25.8%→45.5%）や「遊び」（19.5%→27.3%）、「自然観察」（15.0%→26.4%）など、森の中で比較的気軽に楽しめる活動を挙げる人がさらに多くなりました。

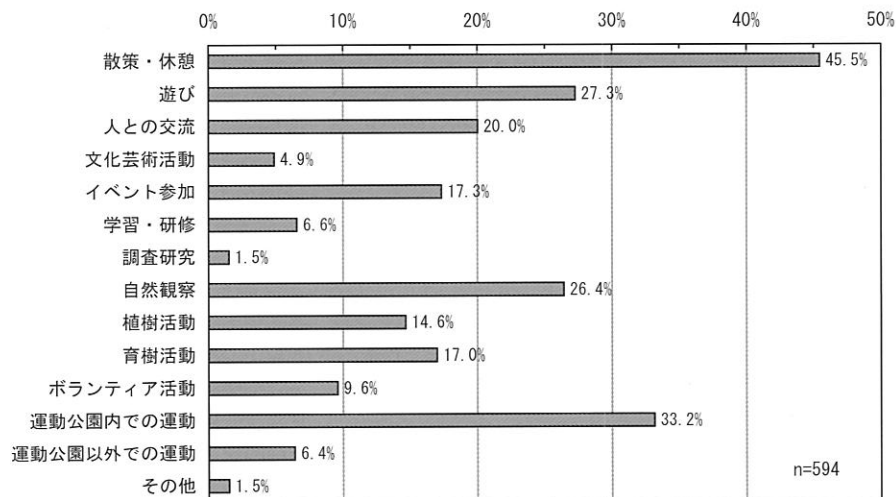


図6 帯広の森で今後やってみたいこと（複数回答可）

（８）今後の森づくりに求められる取り組み

「帯広の森に対する市民の意識や関心を高める」、「市民が帯広の森を日常的に利用・活用しやすい環境をつくる」という回答がともに 3 割を超えたことから、帯広の森に関する情報提供や普及啓発、また、市民植樹祭・育樹祭など大規模なイベント以外に、日常的に森とふれあえる機会の創出などが求められてくると考えられます（図 7）。

また、「森の樹木や森に棲む生き物を守り育てるための取り組みをすすめる」が 26.9%を占めました。市民植樹祭が終了し、今後は、森の育成がこれまでも増して必要になってくることが、広大な面積を有する森はさまざまな生き物の生息・生育場所として重要な役割を果たすことに対する期待が高まっていると言えます。

さらに、「帯広の森を訪れるための交通の便や駐車場を確保する」（19.4%）や、「安全に安心して利用できるよう、安全性や防犯を考慮した管理を行う」（17.2%）、「利用者が快適に過ごせるよう、清掃や草刈りなどの管理を適切に行う」（18.0%）といった、帯広の森を利用する際の利便性や快適性の確保などを求める回答も目立ちました。

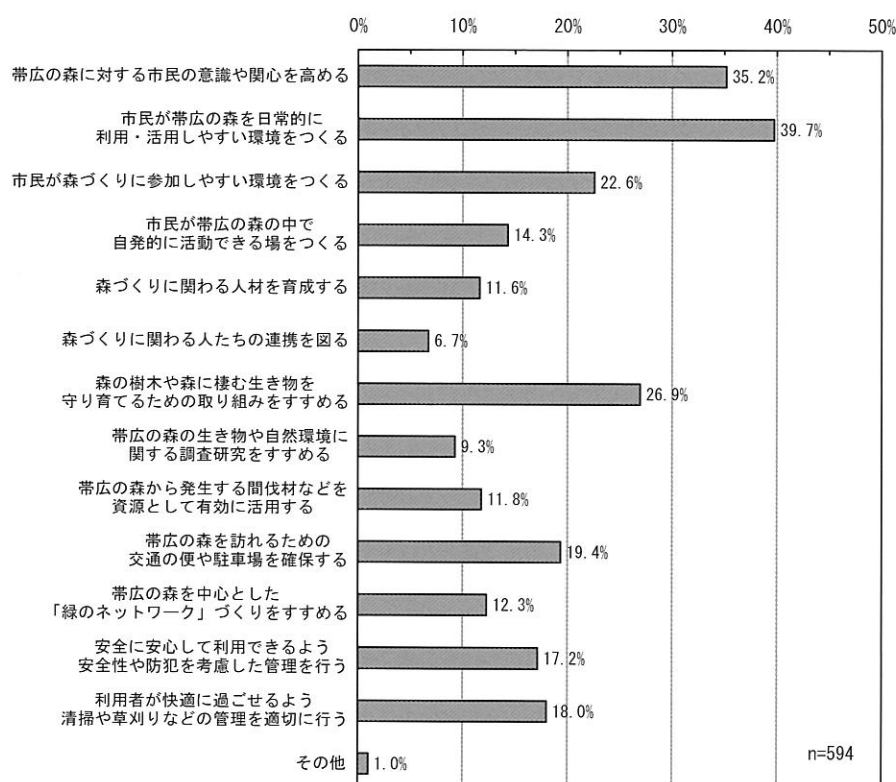


図7 今後の森づくりに求められる取り組み（複数回答可）

（９）その他

帯広の森づくりに対する意見などを自由回答形式で尋ねたところ、100件の回答が寄せられました。

帯広の森に関する情報提供の必要性、気軽に利用でき利便性が向上するような施設（散策路やベンチ、案内板、駐車場、博物館など）の整備、市民植樹祭・育樹祭以外の市民参加型イベントの開催、森づくりの継続と適正な育成管理、自然環境の保全と活用、不法投棄への対応、森の管理へのボランティアの参加、防犯・防災への配慮の必要性など、幅広い分野にわたって、貴重なご意見やご提言を多数いただきました（個別の回答は掲載省略）。

4. おわりに

本調査では、造成開始から30年が経過した帯広の森の現状や、市民による利用の実態を把握し、今後の森づくりのあり方などを検討するための基礎的なデータを得ることができました。

これらの結果は、今後の帯広の森づくりの参考とさせていただき、今後、多くの市民の皆様により一層親しまれる森づくりをすすめていきたいと考えています。

最後に、調査の実施に際し、わざわざ時間を割いて調査にご協力いただいた方々をはじめ、長年にわたり帯広の森づくりにご協力いただいている市民の皆様にご心よりお礼申し上げますとともに、今後ともさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。